

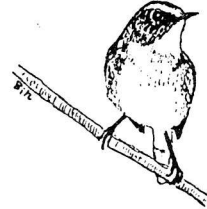
石楠花の宴

平成13年5月12日(土)～13日(日)

先発隊11日(金)～

- ◇参加者 10期木津治男 11期…加藤忠好、長岡正利
13期…辰野隆義、吉田穂積 15期…奥名正啓、舟田節子、松林知一
16期中野淳一(中野里穂 小4) 18期…岡部伸一、椿川利弘
26期畠山潤 ゲスト田村厚子
運搬バイト 41期竹内利行 43期…小倉亮、加藤菜就
44期日野鋼資 45期竹内雅幸

- ◇その足どり(昼…昼個人入山 タ…夕方個人入山 他は朝集合で入山
山…高三郎登頂 屋…小屋作業 運…運搬作業
()はその日宿泊なし ()なしはその日宿泊あり
例: 椿川氏は12日朝入山、登頂し、日帰りした)



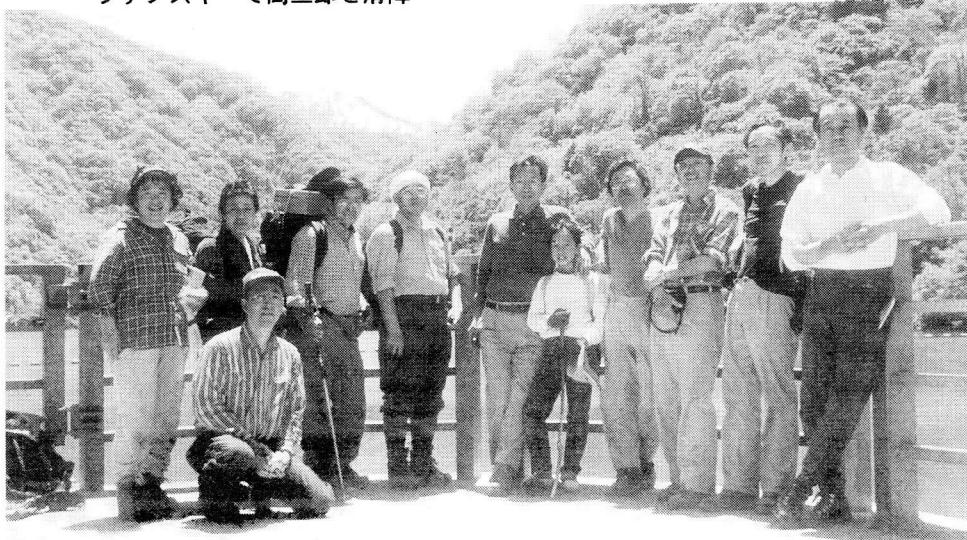
加藤 舟田 岡部 椿川 長岡 木津 田村 辰野 吉田 松林 中野 中野 奥名 畠山
11日 タ 運 運
12日 山 山 (山) 山 山 山 タ 屋 屋 屋 屋 屋 タ
13日 (屋) (屋) (屋) (屋) (屋) (屋) (屋) (屋) (屋) (屋) (山)

◇酒場メニュー

- 11日夜: 牛丼 味噌汁 漬物
12日朝: ラーメン 昼: パン カップ麺 ウィンナ バナナ ジュース 菓子
夜: ご飯 天麩羅(海老、ウド、コゴミ、薩摩芋) 豚汁
きんぴら、ホタルイカとワカメ酢味噌和え カタハ煮物 ワラビ酢の物
13日朝: ラーメン 干鰯 10時のおやつ: ホットケーキ ドリップコーヒー

◇やったこと

- ・囲炉裏用他補修資材を運搬
- ・屋根ペンキ塗り 梁他構造材補強 登り口整備
- ・倉谷の春を五感で愛で、堪能
- ・高三郎山頂にOBの足跡をつけ、歴史を確認かつ追加
- ・ワングル超大作ビデオ“倉谷春の歌”(仮題)ならびに、“残雪の高三郎を行く”(仮題)計6本を撮影
- ・フアンスキーで高三郎を滑降



高三郎山

舟田 田村 木津 加藤 中野 吉田 松林 長岡 辰野
奥名 中野 -60-

お金じゃ買えない ものがある

45期 竹内 雅幸

気持ちのよい青空、快適な気温、豊富な水、青々とした新緑、ボートで楽々。この時期のベルクハイム周辺はとていい感じでした。一年で一番身頃だというこの季節に、高三郎に登ってみたい気がしました。

部室にカメムシを連れてきてしまいました。大変なことにならないければよいのですが。

今回いただいた7500円（日当+車代）のうち7000円を、その日のうちに部費+保険料として部に徴収され、財布のあたたまる暇もありませんでした…。

しかし今回参加したことで、ベルクハイムと高三郎に対する想いが変わりました。次に行く時に、小屋がどんな風になっているか楽しみです。

写真を送っていただきありがとうございます。た。



【今も変わらぬダム管理事務所前】

岡部

日野 竹内（利）

小倉 竹内（雅）

【快適 ボート遊覧。

倉谷のイメージが変わる】

日野 小倉 竹内（雅）



日野 岡部 竹内 加藤 竹内
小倉

感想

44期 日野 鋼貴

山に登るのは歩荷トレ以来で、体力に不安を抱いていたのですが、ほとんどボートだったのでホッとしました。

ボートはとても面白くて乗れました。特に、新緑と青空のコントラスト、水の中に半分埋もれた木々の景色がなんとも言えず、違う場所にいるような印象でした。小屋作業で、苦勞して登る道のりがたった10分で終わってしまうのは衝撃的でした。

普段はOBの方とお会いすることがないので、これを通じてお会いできたことはいい機会だと思いました。ベルクハイム並びに、現ワングルもOBの方々の色々なサポートや努力があったりたっていると感じます。小屋作業の重要



加藤 長岡
奥田 村岡
吉田 山岡
奥田 山岡
辰野 名田
野 中舟津
野 野田

(撮影 松林)

【芽吹き頃の犀奥の山はいい。
木も、風も、鳥も、空も
春だ！春だ！の合唱になる。
左：高三郎Ⅱ峰 右：高三郎Ⅰ峰】

性を改めて認識しました。

写真ありがとうございます。遅くなってすいません。

運搬バイト

43期 加藤 菜就

ボート搬入は気持ち良いの一言に尽きます。そこに中国の大河を思わせるものがあるからです。行ったことがないので、もちろん僕のイメージの中ですけど。

気分を満喫するために三国志でも頭に浮かべながら

「あっ、白帝城がっ！」

と山の上方を指差してみました。

「劉備玄德の？」

同期の小倉が問うてきたので、頷いてみました。奴考えることがあったのでしょうか、一緒に上の方を見上げました。綺麗な所もあるもんだと思いました。

＜本文とは関係ありませんが、ビール券ありがとうございました。今度集まった時などに使わせていただきます。＞

昨日、部室に行くと、新入生もきちんと来ているみたいなので、何か用事がありましたら、僕も下の学年を紹介していくつもりです。これからもよろしくお願いします＞

(菜就君の運搬バイト原稿への返信)

舟田です。

ワンゲル二代も珍しいながら、そのお二人とそれぞれに付き合って高三郎に登ってしまった私も、なかなかのものです。(自画自賛)

ビデオが無事撮れていたらしきは、同期の青柳さんがわざわざ明石まで確かめに行かれたらしいです。そういった同期の付き合いは、人生の味わいとして得難いものです。老婆心ながら、



現役時代を中身濃く過ごしてほしいと思っています。

さて、お父様の高三郎登頂により、父子の力関係の方は、かなり父優勢に傾いたのでは？と懸念しておりますが、その駄目押しのようになんと、お父様の頂上勇姿の全紙パネルができる予定です。これは、「高三郎のビデオを！」の私の願いをかなえて下さった父さまへのお礼の気持ち。明石の自宅でご覧になって下さい。

青春の地・高三郎に再来できた喜び…プラス息子の担ぎあげた道標(ただし写っていない)が立っている山頂。加藤家のお宝になることまちがちなし。

(ただし、このお宝は、超大作「春の歌…倉谷・高三郎」を気合いを入れて編集せい！のど圧力になるんですね。ああコワ！)

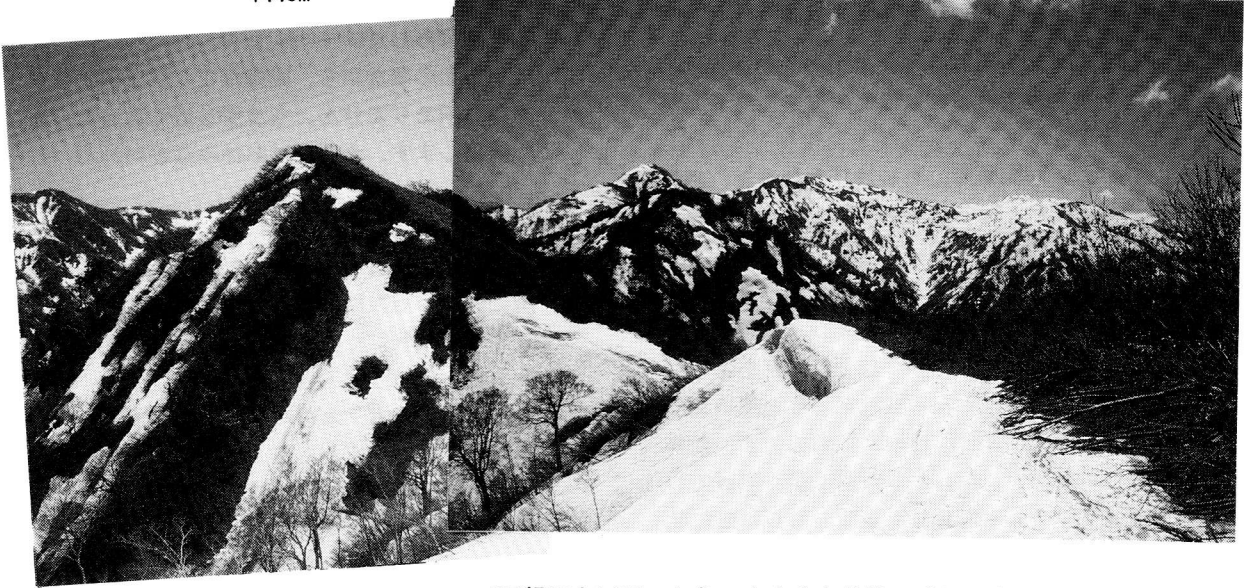
(OB用…なお、上記全紙パネルの原画は、リバーサルフィルムの方でして、父さまがメールで流布されているものとはやや違います。白山も青空もくっきりタイプにつき…そう、また明石へ見に行かなくては！)

高三郎Ⅲ峰

天の又

高三郎Ⅱ峰
(ホイクラ)
1445m

見越山 (オブクモリ) 奈良岳 大笠山 白山 奥三方山
1621m 1461m 1644m 1822m 2702m 1601m



【高三郎頂上1421m から、白山北方稜線の眺望。春霞の時期にこれだけクリアに見えるのは珍しい。ただ、現役達の中に、この時期のこの眺望を目にしている者はいない。高三郎山～白山はかつて長崎幸雄氏が初踏破。金大ワングル部には、春から秋、計6回の踏破記録がある。】



←大門山をバックに高三郎山頂上

18椿川 11加藤 11長岡
15舟田
10木津 ゲスト 田村

↓今度は標柱を入れて
(2枚とも木津さんのCDから)

1/2 ページ

加藤父さんが手にしているのはメロン。椿川さんからはドリップコーヒーも。グルメで君臨するのがOBです。一方現役の場合は…
「高三郎は金沢市の山だからな。頂上には自販機があるのだぞ」
「さすが金沢市は違う」と、100円玉を握り締めて整備作業に登る新人達。もちろん先輩は裏切らない。ジャスコの2缶いくらを、こっそり、ザックに担ぎあげ、頂上で(定価)販売するのである。この件で辞めた新人はおらず、固く伝統は受け継がれている…と、聞く。



あら、今回は辰野おやじの原稿が…。

でも毎度もお気の毒ですし、連絡メールでご登場していただきましょう。

13期 辰野 隆義

さて、今回の荷物の手配ですが、囲炉裏用の煉瓦が重いので約 200kgほどの重さになると思われます。

私は5/10出張で。もし泊りとなると、11日に間に合わなくなるので、それ以前に荷物をダムに置いておこうと思います。

段取りですが、5/3午前中に穂積君と買い出しを行い、その足でダムへ運び込む積もりです。連休中のためそれぞれ予定もあるでしょうし（私はほとんど会社だろうと思いますが、せめて1、2日は休みたいものです。前半は休めませんでした。）なるべく早くやってしまおうということになりました。もし11日に私が行けなくてもよろしくお願いいたします。

また、出来れば椿川君からダムの方へ一言伝えてもらえるように段取りをとっていただける

とありがたいのですが。なにせ、一週間以上も荷物を置いておくと迷惑にならねませんので、よろしくお願いします。それに現役ボッカの手配もよろしく。

いつもの事ながら、面倒なことは全部お任せで申し訳ありません。もう少し近くなったらまた連絡します。それではお休みなさい。

本日朝から穂積君と買い出しに行き、昼過ぎにダムへ搬入しておきました。ダムの管理事務所においでた方に、了承を得て、入り口の横にブルーシートにくるんで置いてあります。シートも持って行って下さい。

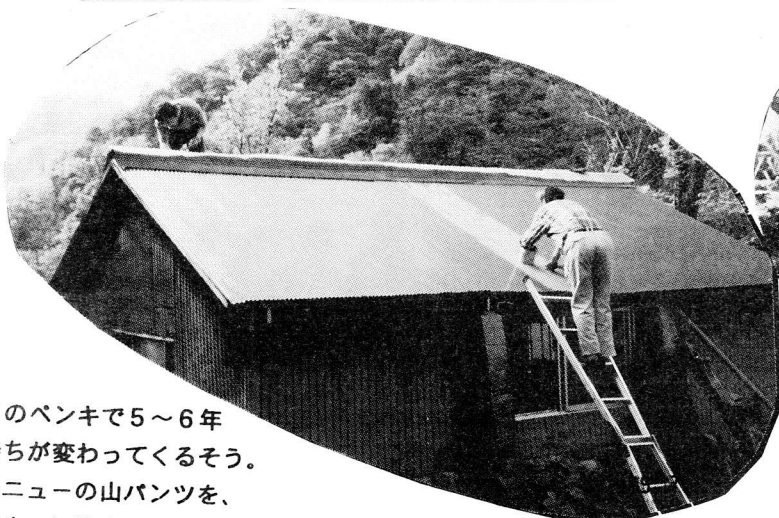
荷物は柱1本、木のバー材4本、ポリカ波板曲げ材12枚、ペンキ1缶、ペンキ用バケツ、刷毛その他小物のビニール袋1袋、煉瓦（段ボール箱割に14～21枚入れたもの）6個、以上です。総重量は 200kg以下だと思います。思ったより量は少ないと思います。運搬よろしく願います。



働いてます！

波トタンの重ねの部分から雨漏りをするのでは？

辰野 吉田



このペンキで5～6年持ちが変わってくるそう。おニューの山パンツを、ブルーに染めてしまった松林氏。



登り口も補修。杭を締めています。
「山へ来てても働くんだねお父さん」

松林 中野

奥名

中野

水場の補修・草刈りも…

■シャクナゲの宴■

— 10期木津

舟田女史より、以下の歓迎メール入りましたので、転送いたします。12日(土)は早朝に出ないと、工学部発8:00では、遅いと言ってきました。

長岡氏が富山県内よりやはり12日に立出とのことなので彼に尋ねてみます。

長岡様

12日早朝にたたる由、舟田女史より連絡ありましたが、どこかで落ち合うことは可能でしょうか。

また、携帯お持ちでしたら、番号を教えていただけたら幸いです。

ところで、高岡を何時頃立出すればよろしいでしょうか。当方、マイカーなのですが。

舟田様

歓迎メールありがとうございます。

ところで、

> 公称コースタイムは、

> 犀川ダム-倉谷集落跡-旧道登山口-高三郎山

> 1:00 0:40 →3:30

> ←2:30

となっておりましたが、犀川ダムに何時頃まで到着すればよろしいでしょうかね。

また、

1 ダムに駐車できますか

2 ダムからBHまでの徒歩タイムは?

3 BHからの、同行者は? 等々

倉谷、BHと言われても、30年以上経過した記憶の彼方の出来事なもので多少心配です。山小屋酒場「シャクナゲの宴」に参加して

30年ぶりの高三郎は最高でした。よき友、よき仲間、よく整備された山小屋、そして高三郎。お天気にもめぐまれ、気持ちよく登れました。久々に、登った一、という気分になりました。十分な、中高年トレとなりました。節子さんの言われる通り、高三郎の神が今後の中高年登山の守り神となってくれんことを。

最高の気分で下りてきて、また山小屋酒場で最高のもてなしを受けました。奥名会長、舟田事務局長、有り難うございました。犀川ダムから、高三郎山頂まで先導していただきました11期椿川さん、ガイドしていただきました11期長岡さん、助かりました。また、心地よき環境にベルグハイムを支えていただいている、13期の辰野、吉田穂積の両氏には感謝&感謝です。また、小生の持参した、40人前のコーヒーをすっきりすっきり、おいしいと、味わっていただいた、メンバーの皆さん、ありがとうございます。「シャクナゲの宴」の監督、11期加藤君、国際映画祭ドキュメンタリー部門賞の受賞を期待しつつ、ご苦労様でした。木津および、+の田村厚子さん、ともども、感謝と感動と、充実感につつまれつつ金沢を後に、高岡に無事帰ってきました。ご報告まで。山小屋酒場「シャクナゲの宴」に集いし人々の記念写真集全29枚、容量1.5MBのメール希望の方下記まで返メール下さい。但し、1メールの添付画像にて送りますのであしからず。

— 11期加藤

高三郎というのは、現役時代にトレーニングで登っていたためかキツイ事が先行し、あまり良い印象を持っていなかった。しかし、今回は違った。この季節、花はあるし(節ちゃんに沢山教えてもらった)残雪のおかげで思わず景色が良かったせいか悪印象どころか、非常に好印象に変わった。

新緑の中に適度に雪の残るタコツ、大門が素晴らしくまた、別山、白山、大笠などの白き故郷の峰の懐かしさ遠く春霞の中に北アルプスも見え忘れかけていた素晴らしい眺望に感動した。1000mの登りに5時間半を費やしたがもう登る事のできないと決めている山仲間のためにビデオ撮影のゆったりとした時間が流れていたのを感じていた。

編集は何時のことになるのかわからない。しかし、また山に登れるかもしれないという自分自身の存在の再発見と青春はまだそんなに遠くに去っていないのを実感した山行でもあった。

当初迷っていた参加だが、終わってみて感謝の念がこみ上げてきた。

奥名会長、今回の企画ありがとう

辰野さん、吉田さん、BHの保守(死守)管理ありがとう

中野さん、可愛いワンゲルII世候補のお嬢さんをありがとう

畠山さん、山スキーの紹介ありがとう

椿川さん、犀川湖遊覧船ありがとう

岡部さん、カメムシ掃除ありがとう

松林さん、ごはんの歌ありがとう

長岡さん、わざわざ高三郎まで付き合ってくれてありがとう

木津さん、下りに花をもたせてくれてありがとう

田村厚子様、また何処かで会いしましょう

そして舟田事務局長、

あなたの予言通り、高三郎山頂まで連れていかれていました

素敵な詐欺山行ありがとう

小山、森川、上村、芝田、青柳、井上をはじめとする同期生諸氏精神的なサポートありがとう
昨日、木津さんから例のCDが届きました。
あまりもの素早さに驚愕しています。

はたまた、昨日

青山羊さんが証拠調べにきました。「加藤、本当に高三郎まで登ったのか」と・・・ちょうど、節ちゃんからの写真があったのでこの動かぬ証拠で無事、査察をパスしました。それくらいに、登らなかった人はショックを受けたとき。当分、この爽快さは持続するでしょう。青山羊さんへのお手紙「さっきのお手紙食べちゃったのでピントはずれかも知れませんが お返事出します。」

年をとってくると友人が財産です。

私の場合、例えば、夫婦喧嘩したときにやはり緊急避難場所が必要です。行き先がないのでは、その時点で喧嘩に負けたのと同じです。この場合、気の弱い私には自殺という道が考えられます。負けない喧嘩をするためにも一つでも多

くの緊急避難場所を持っている事が必要でしょう。そして、そこで友人と喋り憂さ晴らしをして、意気揚々と家に帰る。将に、「夫婦喧嘩の美学」というべきでしょうか。相手も、何処かで憂さ晴らしをしているという安堵感があれば精神的にも、よろしかろうというものです。このような点で、学生時代の友人というのは最もありがたい存在です。そして、人生は知的活動よりも経済活動よりもこのようなユーモアのある美学に生きるべきでしょう。他人の少々迷惑など気にしてはいけません。所詮、我々が存在する事そのものが罪悪なのですから。友人と一つ釜の飯を食っていた吾が青春時代に感謝します。というわけで、何時でもいらしてください。緊急でしたので神戸牛(??)を出せなくてゴメンナサイ。次回は、シュラフ持参で庭にテントを張り青春を懐かしむというのはどうでしょうか。中間考査の問題作りで毎晩徹夜状態の加藤です。BHでの規則正しい起床時刻に就寝しているこの頃です。都会人の生活ってのは、やはりいびつのです。

節ちゃんが撮ってくれた高三郎山頂での写真が上出来なので再度送ります。いいでしょう。長岡氏もカメラを3台持って登ってような気がします。木津さんに見せびらかしただけのようで人物像は望み薄のようです・・・長岡正利テーマ写真集「原始から続く白山麓の生活」によって我々は文明開化しすぎたようです。

長岡様
縄が池へのお誘いを断って温泉に行きましたが曲水温泉はよかったよ。安い(300円ぐらい)泉質(苦土の味がする珍しいもの)展望(湯涌温泉行きのバスがズーッと見える)の三拍子そろいだった。山の後はやっぱり温泉だな。それから、ピンクの本、表紙が萩市の地図のがありました。

みなさーん
先日の写真よろしければCDromで送ってください。貴重な映像をビデオのタイトル画や花の場面に使えればと思いますのでビデオの件、あまりストレスをかけないで下さい。髪の毛がなくなってしまう。

ビデオの方スキーと違って一応映像はありますが動きが少ないのでちょっと単調かなーと思います。といっても節ちゃんに谷底に落ちてもらうわけにもいかなかったし・・・急なコースでは、撮影者もカメラを回す余裕が無いし、素人というのはこんなモンでしょう。

木津さんからの映像をどう使うかです。木津さん、メール添付の写真ファイル全部見えました。欲しかった高三郎の道標と私が同時に写っている高三郎登頂の証拠写真があってほっとしています。
節ちゃん、木津さん&松林さん
どうもありがとうございます。

下界に下りてから、息子に聞いたのですが新道との分岐の雪に埋まっていた道標も高三郎山頂の道標も途中まで息子がボッカしたとのことです。父親が見てきたので喜んでいました。

11期長岡
爽やかな朝から、夕方には珍しくも雷雨、そ

れが上がって再び爽やかな空の日暮れ。

今週末も、先週に続いての好天。山々では、遙かに望む残雪と新緑の日々・・・

先週末催行のベルクハイム「シャクナゲの宴」につきましては、関係者間でメールが飛び交い、いずれ、奥名さまのご尽力によりHP上に写真なども紹介なされましょうから、小生の方からは、それ以外の話題などを主に。

犀川ダムへの最後のカーブを廻ると、ダムの上に突然に見える高三郎山は、豪雪地帯ならでの、まだたっぷりの残雪。

晴れ上がった空、まだ寒い早朝の天気。倉谷までたどれば新緑はまさに盛り。集落跡の家屋敷地石組みにはコゴミ(クサソテツ：山菜)のあざやかな緑の群生、サワクルミの大木と谷奥に丸い頂部を覗かせる多古津山は昔に変わらず。

旧道尾根に登るにつれて、喘登の樹間から前高三郎のなだらかな尾根へ。その残雪の中にすっきりと立つブナの新緑。さらに登るにつれて、ちょうど満開の石楠花、コブシ(タムシバ)、マンサク。山頂直下では、まだ芽吹きわずかの梢と一面の雪。

昼近くになって登り着いた高三郎の山頂からの白山までの眺めは、3月頃の残雪期春山とはまた違った、おだやかさにあふれた春そのもの。遙かに望む北アルプスは、春の空に淡くかすみつつも、槍ヶ岳あたりまでの一望。

山頂や小屋でのコーヒー、皆様、昔にお変わりなくの会話と山菜などの食事に、ゴハンの歌。楽しい山歩きの日半でした。メールでお送り戴いた当日のデジタル写真からも、山頂での雪の感触、出発間際的小屋でのウグイスの声など、よみがえります。

あれから一週間。小屋の上手にちょうど咲いていたウワミズザクラに変わって、今頃はニセアカシアの白い花が咲き、下の河原にはタニウツギが一面に咲いていることでしょう。

水場導水管の再埋設のため掘り返しているうち、旧トイレの廃材を動かしたところ、ヤマカガシほか1匹の蛇(今後のためにご注意)。再び静かになったあの辺りでの、春の惰眠をむさぼっているのではと。小屋掛けでの山菜取りの方もおられましたが、人も動物も、蛇もカメムシも木々の緑も、それぞれに倉谷での長閑な春が過ぎつつあることでしょう。

旺盛な生命感にあふれるこの時期のブナ林の新緑は、本当に美しく、毎年のことながら見るたびに心躍り、嬉しくなります。

15期松林
こちらこそ青春の息吹をありがとうございます。

先輩諸氏の若さと元気さに接し、こちらも若返った思いです。3年ぶりのベルクハイム。もう2度と登ることはないと思っている高三郎ですが、加藤さんのメールを拝見して、せめてあと一度、挑戦してみようかな、という気にさせられました。
秋にまた、お会いしたいものです。

16期中野
久しぶりに訪ねた山小屋は懐かしい臭いで一杯

でした。仕事を忘れて久々にのんびりリフレッシュできました。山菜のてんぷら、美味しいコーヒーとお菓子。
今回は山小屋酒場というよりは山小屋喫茶の雰囲気でしたね。諸先輩達の面白いお話に本当に楽しいひと時を過ごせました。多少の強制労働もありましたが食うためには仕方ないですね。それから娘の里穂が大変お世話になりました。気楽に連れて行ったのですが、まだ無理なところがあったようです。途中のガレ場や沢では相当に恐かったです。家に着いてからもう一度山へ行くか？
と聞いたら「いやだ」と即答されました。でも時間が経てば行きたくなるかも。
みなさま、本当に御馳走様でした。お世話になりました。

26期 畠山

ベルクハイムの新緑の宴に参加させていただき有り難うございました。小屋作業もせず、招待頂いた形になり、申し訳ありませんでした。
しかしながら、先輩方のベルクハイムにかける情熱、苦勞話、昔の山行の話など結構刺激的でした。高三郎山頂を踏んだのは15年振り、白山-ベルクハイム以来です。在学中10回ぐらい登っていますが、旧道を登ったのはたぶん初めて。新道は荒れていてお奨めできないとのこと。昼寝岩上部の崩壊が大きくなってきているのでしょうか。

今回のテーマは高三郎頂上からスキー滑降を行うこと。基本的には、山スキーの本に紹介されているルートは、ある程度の標高があつて雪が多く、雪が消えても登山道が確保されているところばかりです。そういうことでは屋奥の山は、たぶんスキー滑降には好ましい場所ではありません。滑降コースに登山道がないし、沢の下は崖になっていたりするので、滑った分だけ登り返さなければならぬ。しかし、雪があればどんなところでも滑ることが出来ます。いくら豪雪の年とはいえ、ここ数日の陽気で融雪が進み、ゴールデンウィークの1週間後は時期的に遅すぎたと思いましたが、頂上の東側斜面はべったりと雪が付いていました。見越山や奈良岳、大笠山の東斜面も真っ白です。奈良岳の奥三方分岐から犀滝に至る谷も雪に覆われています。滑降可能なコースはいくらでもあるではないか。見越山から南東斜面、開津谷方面などは豪快に滑れるでしょう。高三郎東側は、傾斜は大体40度、多少の凸凹と灌木がありますが、雪面が緩んでおりジャンプターンの可能な快適斜面です。手元の硬度計の標高差で300m程を滑降しました。ここより下はルンゼとなり、まだ細く雪が続いていてその先は見えない。倉谷核心部魚止めの滝に落ちる沢です。滑りすぎると登り返しが大変なので、適当なところで打ち止めにしました。
思ったより滑れました。再び頂上で遠くに見える白山に挨拶した後、ブナの新緑とシャクナゲの花を楽しみながら帰路に着きました。

モモンガ



ありがとう

田村 厚子

ステキな出会いを作って下さり、感謝で一杯です。山も天気も感動的でしたし、学生時代に戻って会話が弾み、嬉しい顔を見ながら、自分も居たかのような錯覚を覚えてしまいました。OB会ってこんなに良いものなんですね。お世話していらっしゃる舟田さんに、改めて敬意を表します。

食事美味しかったですよ。山菜などの旬の一番美味しい物を集めて下さり、どれも中年には嬉しい味で、木津さんも褒めていました。

それにベルクハイムは最高ですね。特に水洗トイレは素晴らしい。皆さんの団結力を象徴しているようですね！囲炉裏が出来たらもっとステキ。また、木津夫妻と見に行けたら…な～んて思っています。本当にありがとうございました。

山情報などメール交換出来たら嬉しいです。

石楠花の宴：関連お便り

1期 仙田 厚太郎

拝啓 初夏の候 ますますご清栄のことと、お慶び申し上げます。平素はOB会のお世話大変有り難く感謝申し上げます。

さて大変遅くなりましたが、今回のイベントの件、都合がつかず出席できません。参加各位に宜しくお伝えしていただきたく、願います。ここもと、少しばかりの酒代同封しましたのでお納め下さい。盛會を祈念しています。

先ずは、ご連絡まで。

敬具

追伸 この連休に、中国「黄山」に行ってきました。好天に恵まれ山水画の景色満喫してきました。何とか登りきり、ギブアップもしませんでした。さすがに疲れ、平素の不摂生を思い知らされました。次回皆さんとお会いする時には、少し鍛えて迷惑のかからないようにして行きます。

3期 登内 郁夫

今回は思っていました、タイミングが合いませんでした。7、8と西尾兄、田村さんと一緒に山の坊から小谷温泉でした。昔のスキー合宿の跡を訪ね、久し振りに雨飾を見てきました。スキー合宿では雪のモノトーンの素敵な山でした。少し霞んだ雨飾でした。石楠花の宴にご出席でしたら、皆さんに宜しくお伝え戴けましたら 幸甚に存じます。

4期 高田 昌嗣

石楠花の宴の件、連絡有難うございました。残念ながら欠席です。これに懲りずにまた連絡して下さい。メールアドレスを追記お願いします。

4期 森島 稔

前略 只今右手(肘から指まで)故障につきメールもペンも不自由になっています。12、13日の集いも欠席しますが、気持ちのある分、差し入れします。天候に恵まれることを、祈ります。

5期 金岩 孜

桜の季節からサツキ、藤、ボタンの頃に移ってきました。毎回ご案内頂き感謝しています。只、山歩きから遠ざかってかなりの年になり、今回も欠席になります。

いつも皆さんのお元気な様子を聞き知り、数年後自由を弄ぶようになった時に備え、足腰に筋を付けておきたいと思っています。その時はまたどうぞ宜しくお願いいたします。参加方々に宜しくお伝え下さい。

6期 合津 尚

毎度 お世話になっております。年末でしたか、「やまざと」最新号を受け取りました。皆さんの活躍に勇気づけられました。

長い冬が過ぎて山菜採りのシーズン到来で4/22は、近くの山に入りました。熊がでるので案ではないのですが、体が動いてしまいまして。そんなところに、5月12、13の「石楠花の宴」の案内をいただき、心惹かれること多次ですが、時間とお兼ねの都合がつきかねますので、不参加とします。

さて、そろそろ退職がどうのとか、年金のはなしんとかが同僚や家族から持ち出される世代となりました。ひたすら前にむかって走るのみでしたが、少し立ち止まる時期かなと思ったりもしております。

こんな時期に、最近ベストセラーになった、池宮彰一郎さんは興味ある一人です。1923年生まれ、1922年68才で第二の職として作家デビューし、文学賞受賞という経歴の方です。現在78才で「島津奔る」等々を執筆するエネルギーはどこから来るのか、大変な人です。この作者の短篇に「受城遺異聞記」という文庫本(文芸春秋社)があります。中身は1760年頃の大聖寺藩士による冬の白山越えの話です。地図を手元に一読をお勧めします。まずは近況報告まで。

9期 白井 勇

拝復 ご無沙汰いたしておりますが、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。いつもOB会の運営にご尽力いただき感謝申し上げます。

この度は「やまざと」をお送りいただきありがとうございます。金沢の近況そして「石楠花の宴」ご案内楽しく懐かしく拝見いたしました。立原道造の詩の一節に「夢はいつもかへっていった 山の麓のさびしい村に…」再訪したい所No.1の倉谷ですが、残念ながら、只今は「会社の雑事最優先」の身です。倉谷再訪はもう少し先になりそうです。まずは 取り急ぎご案内お礼まで。 敬具

11期 小山 清

KUWV・OB会のお世話ご苦労様です。先日の赤倉ではすれ違いとなり、残念です。石楠花の宴には参加できませんが、小額を差し入れとして同封します。2度目の転職をしましたので、名簿の変更をお願いします。

重ねてのお誘いは有り難いのですが、欠席させて下さい。4月26日の立山スキーで痛めた左ふくらはぎが少しはよくなったのですが、なかなか治らず、今も膝から下がむくんでいます。それが最大の理由です。とても、ダムから倉谷まで歩けません。では、参加されるみなさんに宜しく。

11期 森川 功

やっと、5/4～5と1泊2日で、かの小山さんでもふくらはぎを痛める程の御山谷へ行ってきました。今年は過去3年で最も雪が少なかったですが、小山情報の通り御山谷出合まで雪があり、御山谷を渡る橋は壊れてありませんでしたが、なんとかスノーブリッジを渡れましたが、あと2～3日するとダメでしょう。今年の御山谷は途中にナダレの跡があり、暑いぐらいの好天に恵まれたこともあり、ゲレンデとしてはイマイチでした。出合から黒部湖までの徒歩中、沢を横切った10m後の小さな雪崩があり、少し涼しくなりました。今年はアルペンルートの中のボッカを連れて行った事もあり、荷物は最小でそれなりに快適なスキーでした。(今年もここに連れて来てくれた小山さんに感謝)

4日10時頃、ケーブルを降り美女平についたらあたり一面ガス、バスの中から称名の滝は見え(バスの中のビデオの観光案内もそう説明。見える時と見えない時と2バージョンあるのかな?と感心的一幕)感心していると、弥陀が

という事で12日は参加できません。ごめんね！
来年は連休後1週間を置いてくれば…。

せっかくのお誘いをいただきましたが、13日は姪の結婚式があり、参加できません。「山小屋酒場（修繕班？）」を支える地元組としては、お手伝いをせねばならないところですが、ご容赦下さい。皆様によろしく…。

懐かしのベルクハイムに行く機会を失いましたが、次の機会に是非参加させて下さい。本当に残念です。代わりに本日、六甲山を妻と歩いてきました。参加された皆様によろしくお伝え下さい。

BH行きの案内ありがとう。残念ながら参加できそうにありません。GWを久し振りに海外へ行こうと計画中。スペインをさまよってこようと思っています。BHでの盛会を祈念しています。

「石楠花の宴」のご案内をいただきありがとうございます。奥名からも毎月OB通信をいただき、1年に1度くらいはと思っているのですが、なかなか思い切れないでいます。皆さんの楽しそうな集まりの案内や報告を見て、とても羨ましく思います。そのうち、必ずやそのうち参上しますので、今しばらくお待ち下さい。ま

せっかくのお誘いですが、添乗帰国後間もなく、結局週末の勤務調整がつかせませんでしたので、今回は不参加とさせていただきます。またの機会をと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

残念ながら5/12は究極の家族サービス？が控えています。5/11に第2子が誕生するので。5/12はベルクハイムではなく、産婦人科に宿泊します。残念ながらそういうことですので、よろしく願います。妻とこどもは、親元にかえっているので、今は独身です。ときどき、体力作りに励んでいます。

長期にわたって係留されている小型ボート

金沢市の犀川ダム

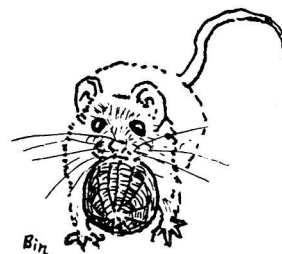


秋の山小屋酒場

◇10月13日(土)～14日(土)

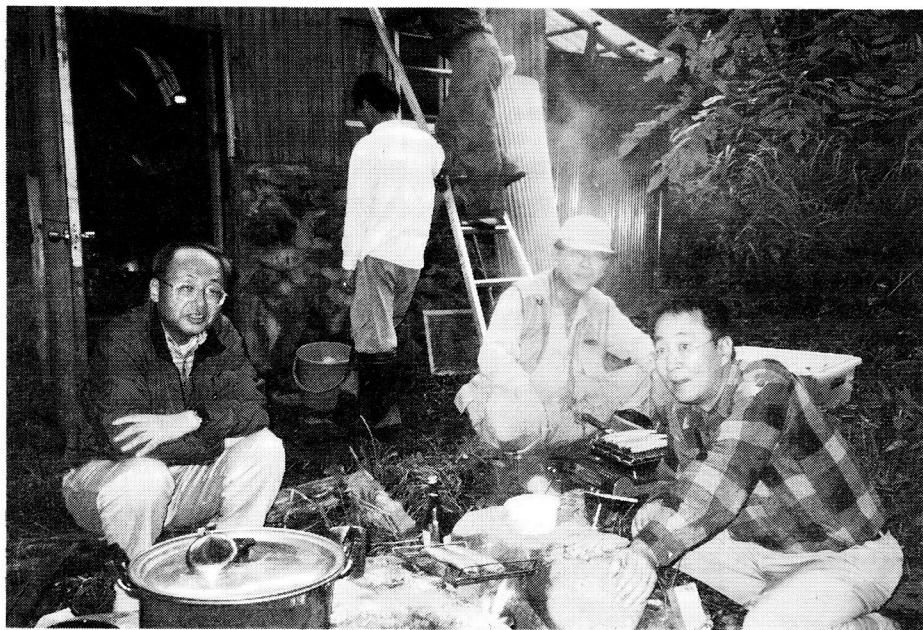
◇参加者

0期 田村昭夫 13期…大島良治、辰野隆義、吉田穂積、吉本良治
15期 奥名正啓、舟田節子、松林知一 16期 北川隆次



「刷り込み」って恐ろしい。13期が技術集団であることはさておき、15期が指先しか使えない集団であるのは、さておき、食事に就かねばの脅迫観念に捕らわれる。だってホラ、慣れないことすっから指先切っちゃった。

辰野 吉本
北川
松林 大島 奥名



15期 舟田 節子

メールは便利といっても、話を決める時には間に合わない。中学生指導後もたつて、くああ、ちょっと電話かけるには遅いな…でも、明日にのぼす訳にも…>と、辰野オヤジに掛けたのは9月11日夜10時半を過ぎていた。予定通り10月13日決行とし、早速HPに、KUWV-MLにも流す。床についた時、日付は変わっていた。(たぶん電話の時点でテレビには速報が流れていたはずである。)その夜多くの家庭がテレビに釘付けになっていたであろうことを私は知らない。

翌朝、特大活字が朝刊を埋めていた。米国同時多発テロの勃発。最新情報をとテレビをつければ、何度も何度も繰り返される衝突シーンに、崩壊シーン…。現実と思えない…。

でも、やるしかないサ。大出さんの時だって、やったんだもの。中止して事態がどう変わるというものではないのだから。

ただ、恒例のように参加した人達に、元気がなかったのは事実。まだ毎日のニュースがテロ事件のその後で始まる、そんな頃の山小屋酒場であった。

今年の現役の小屋作業は、好天に恵まれ順調だったようだ。ダムサイトが整備された事にもびっくりしていた。だから私も、念のため、あほらしと思いつつ「あの…犀川ダムへの道の件ですが」と、金沢土木事務所に確認の電話を入

れたのだ。

「今週初めから通行止めになっています」

「重機が入るから、通れませんよ」

エーッ!?もう…こんなのほんと、やってられない!でも、私だって、年季が入ったのだ!

犀川ダム管理事務所に電話を入れる。職員はゲートに鍵のかかる前に入り、仕事後に通過しているとの返事。それ、通れるではないか!一瞬安堵の息をついた私に、もう馴染みになった所長さんは言った。

「それ以上は、椿川さんにたのんまっし」

結局、集合時刻を繰り上げて、対処とした。

10月13日。松林さんの車で工学部へ。田村教祖が早朝着でお待ち。でもそんな無理で、もう風邪気味であられるよう。

北川さんを乗せて奥名さん登場。彼も今朝、千葉帰りで、北川さんの電話がなければ寝過ぎていたかもとのこと。辰野さんも昨夜遅くの、時刻変更の連絡の際に、まだ帰宅していなかった…。別にこの小屋酒場、誰が無理させているというものではないが、仕事は控えめにしておかねば…。

電話で確かめてよかったといいつつ、走ればどこが工事とも気付かずダムに着いてしまった。(ほんと、やっておられん!)今日の厄介は長物が1本。前方に軽ジープが1台。昨年標柱運びを手伝って下さった山下さんだった。

彼はざっと7人と見るや、「荷物だけ乗せて
ったげるわいネ」「最後までつっこんで、鍵か
けんと置いとくさかい、出していきまっし」

行きは、食料があつて重たいのに、急にラク
になってしまった。余計、厄介物になった長物
を蹴く押しつけ合いながら、それでも3人ずつ
がぶら下げ前進。

当然ながら、あっけなく慰霊碑前に着き、さ



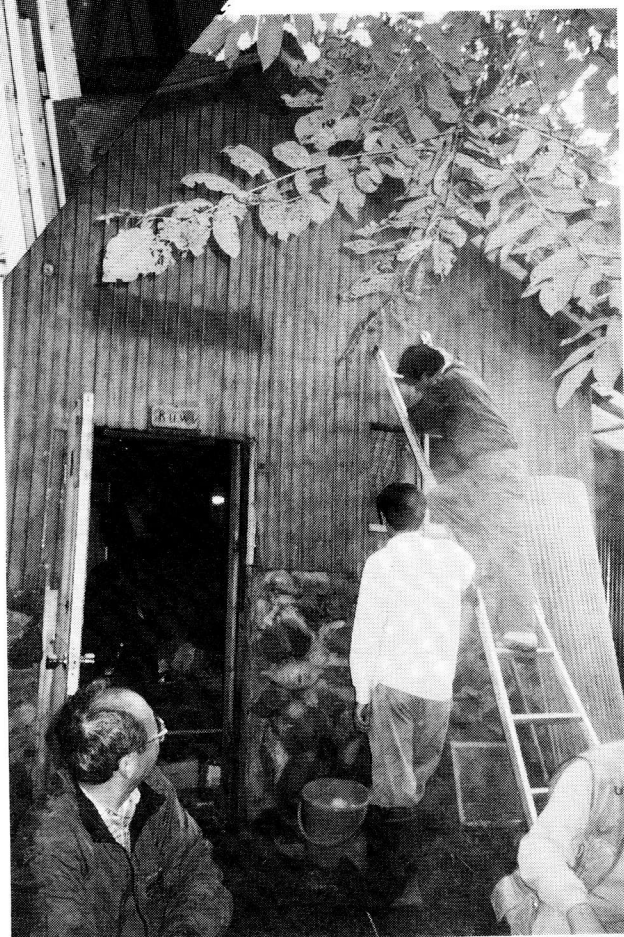
北川
辰野 吉田



グレードアップ
した流し

水上谷（二つ目の切れ込み）
いつもはこの沢で休ん
でいたのに。通過
するしか…。

内・外、呼応して
通し釘を。



て水上谷をどう処理してあるかと前進すれば、
4本の導管の上に道路が通してあった。はれー！
ワンゲルにご縁が出来て以来の、平坦車道歩き。
「車道」は出島を廻り込み、あと少しで吊橋が
見える所まで延びており、そこに、山下さんの
車は停めてあった。

そこからも手作業での拡張がなされており、
体軸を傾けることなく、倉谷に着いてしまった。
啞然。嬉しいような、もの足りないような…。

だから、早速実働が始まってしまった。春の
石楠花の宴では、お客様多数につき、内部を触
れなかった。今回、遠慮なしに、構造部をいじ

くるようである。こんな時、私は、小間物の整理に専念するのであるが…。あれと思った。すごく綺麗に整頓されていたからである。女子の入部の方が多かったと聞いていたから、そのせいかもしれない。

でも、そのさらに1カ月後の現役3回生との懇親会で、聞いた。小屋作業の1日目、テントのようなバラバラではなく、一つ屋根の下に全員入ってワイワイがすごく楽しくて盛り上がったそうである。(2日目は見込み違いで、暗くなってからの下山になり、大変だったらしい)水が出るし、水洗トイレはあるし、テーブルコンロが使えるし、小屋って面白いと思ったという。さらには彼らが1回生の時、床がボスボスと穴があき、どうなるかと思っていたら、翌年にはちゃんと白木の床に修復されていた。こんな事をしてくれるOBが自分達にはいると、親和感を増したらしい。

この点は、辰野さんを筆頭の13期の皆さんに感謝するしかない。「いざという時のOB」など、空手形である。活動やサポートが、現役の目に見えなければ、「OBがいる」ことにはならないのだ。

ただし、小屋酒場の時点では私はそれを聞いて

ていない。大工仕事の間には合わないしで、雑巾を手にして、あれ、以前とちゃうぞと、感じたことだった。

小屋の方はさわる程に傷みが露見してくるようで、あるいは、余計に全体バランスが狂ったかも。

大島さんは、さらに流しの快適さにチャレンジしておいたが、器用というのか、遊んでいるというのか…いずれワングル風システムキッチンがお目見えするかもしれない。

その日は早々の就寝になった。久々の小屋酒場だった大島さんが

「あれ?もう寝るの?」

と、がっかりしていたが、何せ体調不良に、テロ事件の気鬱に、明日は8時半前にはゲートを通り過ぎよう、早立ちしなければならぬの事情があった。したがって殺戮を免れたカメムシは多数が越冬できる模様。

翌朝焦って歩いたのに、重機の影も形もない。「土、日は工事せんと違うか?」

ほんと、もっとまともな情報が欲しかった。家人はまだみんな寝ていた。今日、ナカオのみんなは、海谷山塊の駒ヶ岳へ出掛けははずだ。シュラフをベランダに干す空が、青かった。

北 陸 中 国 1999年(平成11年)1月6日(水曜日)

クサギカメムシは体長一四一ハ、カメムシ科に属する昆虫で、クサギなどの植物上でよく見かけるが、果実(カキ、モモ、リンゴなど)の害虫としても知られている。ところで、平成四年ごろだったろうか、河内村内尾にある「ふるさと保養センター・清流」の支配人であった水上潔さんから「清流の中にヘクサンボが多く湧いています。何かよい退治方法がありませんか?」と尋ねられ、「退治方法はありますか」と返事をした記憶が残っている。平成九年の十一月にも「家の中にヘクサンボが多く湧いています」、平成十年の十月には鶴来中学校の教頭さんから「教室内にクサギカメムシが入って困っています。防除の方法はありませんか」という質問を受けたが、この時も「方法はわかりません」という素っ気ない返事しかできなかった。

ヘクサンボ、すなわちクサギカメムシは、冬になると集団で越冬のために家屋内に侵入し悪臭を発するため、不快昆虫として知られている。この不快昆虫であるクサギカメムシは、「清流」でもそうであったが、日当たりの良い場所に多いようである。

悪臭発するクサギカメムシ

冬には集団で家屋内へ

ワングル教養講座

*カメムシは、見晴らしが良くて日当たりの良い場所に集合する。即ち、ベルクハイムは、倉谷における、カメムシの最適シェルターである。

*ウィスキー壺に捕獲ならびに、ローソクによる執拗な火あぶりの刑…期せずして、最適の防除法である。

ヘクサンボの異名をもつクサギカメムシ。悪臭を発する不快昆虫である

この返答に基づけば、捕獲が最高の防除法といえることになるであろう。

能である。

入して来るク

サギカメムシ

を捕獲してゆ

けば防除でき

る。薬剤によ

る防除は不可

能である。



に電話で伺ったところ、次のような返答を寄せられたのである。
「クサギカメムシは太陽光を受けているような場所、言い方を換えれば、見晴らしが良く日当たりの良い場所のみに集合する。しかも、少しづつ侵入しはじめ次第に多くなるもので、ある時侵入個体数がピークに達した後、また減少してゆく。だから、毎日侵入して来るクサギカメムシを捕獲してゆけば防除できる。薬剤による防除は不可能である。」

館長さんの昆虫記

県ふれあい昆虫館 富樫 次

★★13